

第3章 下野市民の意識・提案

第1節 市民意識調査

下野市の現状や将来の姿など市民の意見や要望を調査し、総合計画に反映するため市在住の18歳以上の市民3,000名に対し実施しました。

【調査概要】

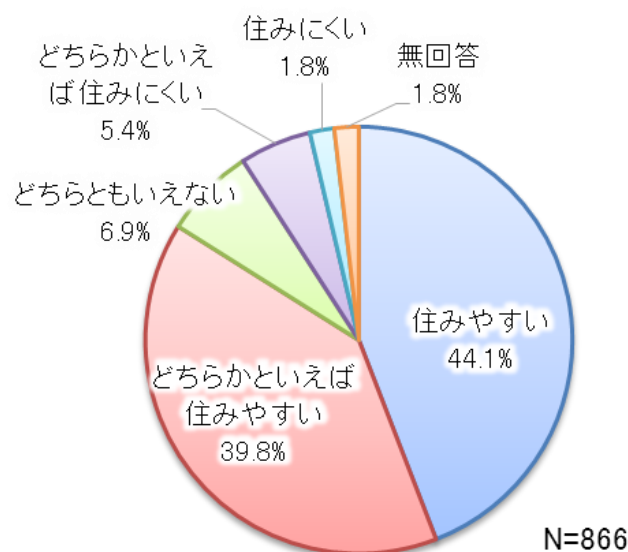
対象	下野市内在住の18歳以上の市民3,000名
手法	郵送配布・郵送回収
回収状況	配布数3,000通、回収票数866通、回収率28.9%
実施時期	平成26年8月
調査項目	・回答者について ・市（行政）の取組について ・まちづくりへの参加意向 ・自由意見 ・現在の下野市について ・「幸福感」について ・将来の下野市について

【調査結果】

○現在の下野市について

- 8割以上の方が住みやすい・どちらかといえば住みやすいと回答しています。特に女性は男性よりも「住みやすい」という回答が多くなっています。
- 身近な生活環境について「病院・診療所などの医療サービスが充実している」、「自然災害に対して安全性が高い」、「林や川などの美しい自然環境が豊かである」という回答が多くなっています。
- 医療サービスの充実や、自然災害への安全性、自然環境の豊かさが、下野市の住みやすさにつながっているものと考えられます。

■「住みやすい」と思っている割合



○市（行政）の取組について

■満足度と重要度の分布状況

①満足度、重要度ともに高い領域

- 「1 消防・防災」、 「9 上水道の整備」、 「24 医療体制」等があり、維持していく必要があります。

②満足度が高く重要度が低い領域

- 「11 まちなみ景観」「16 公園・緑地の整備」「32 文化遺産の保存や活用」等があり、維持していく必要があります。

③満足度が低く重要度が高い領域

- 「25 保険・年金」、 「15 公共交通の整備」、 「37 労働環境の充実」等があり、強化していく必要があります。

④満足度、重要度ともに低い領域

- 「33 地域間交流・国際交流」、 「42 NPO 団体や市民ボランティアの登録促進」、 「40 まちづくり活動に参加する機会」、 「44 男女共同参画の取組」等があり、強化していく必要があります。

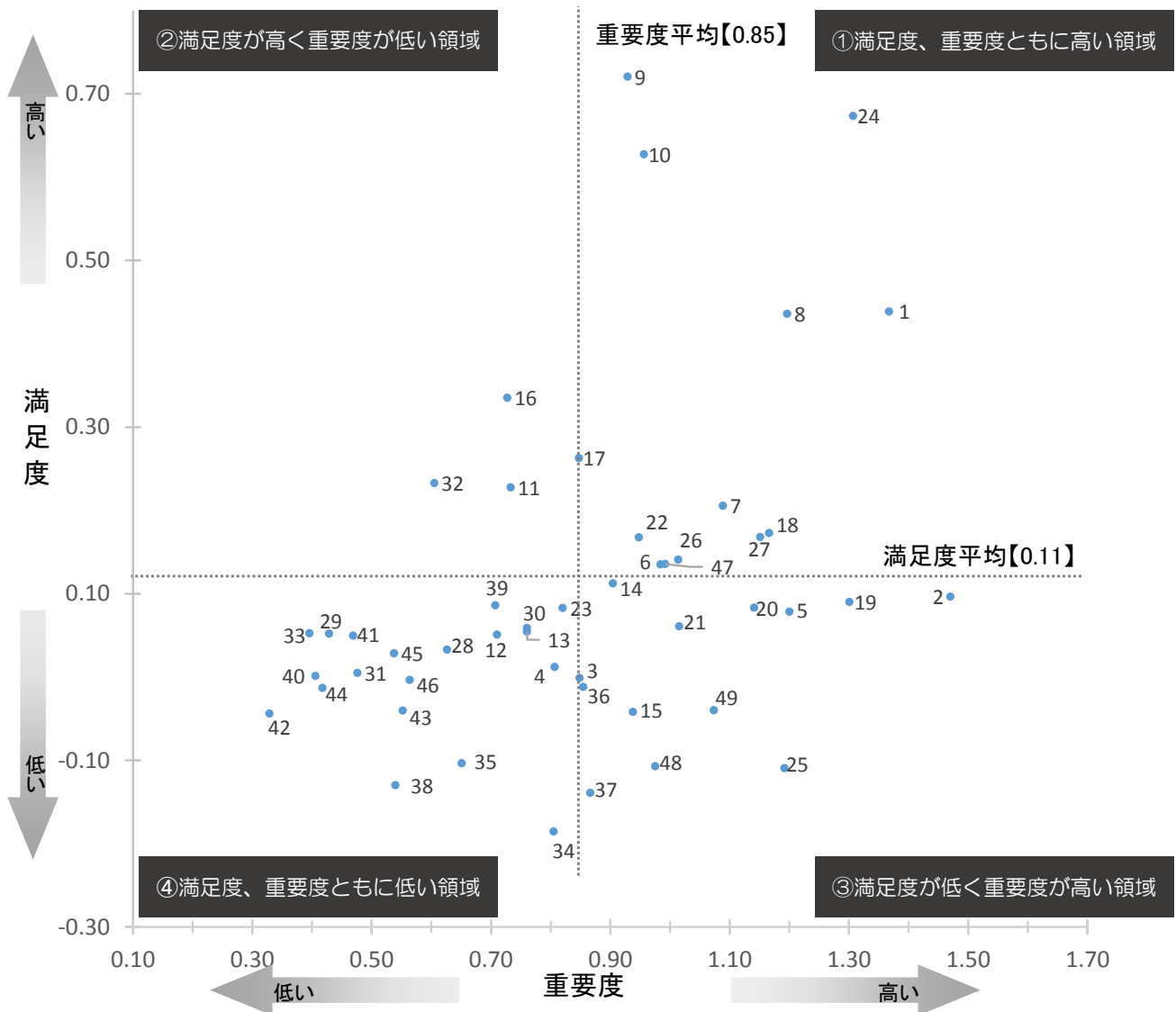
■行政施策の満足度

本市の行政施策に対する満足度について「満足」「やや満足」を合わせた回答の割合を項目ごとにみると、「医療体制」が53.2%、次いで「上水道の整備」50.4%、「下水道の整備」47.3%の順になりました。これに対して、「不満」「やや不満」を合わせた回答の割合は、「商業の振興」が24.7%、次いで「公共交通の整備」23.8%、「保険・年金」22.2%の順となりました。

上下水道の整備や医療体制など、満足度の高い項目のサービスを維持するとともに、商業の振興などの産業関連施策の満足度の向上を図ること、公共交通の整備などの施策に重点的に取り組んでいくことが求められているものと考えられます。

「満足」「やや満足」を足した割合	順位	「不満」「やや不満」を足した割合
医療体制 53.2%	1位	商業の振興 24.7%
上水道の整備 50.4%	2位	公共交通の整備 23.8%
下水道の整備 47.3%	3位	保険・年金 22.2%
ごみ処理・リサイクル 42.0%	4位	観光の振興 20.0%
消防・防災 37.3%	5位	市の仕事の効率性 19.7%

■ 市政への満足度と重要度の関係



【凡例】

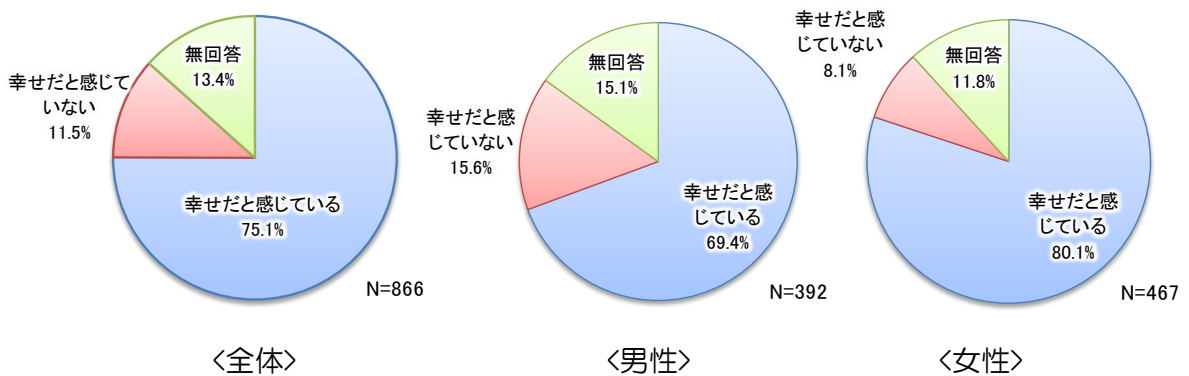
- | | | |
|---------------------|----------------------|--------------------------|
| 1. 消防・防災 | 2. 防犯（犯罪対策） | 3. 消費者保護の取組 |
| 4. 定住促進のための住宅対策 | 5. 交通安全対策 | 6. 公害対策 |
| 7. 環境対策 | 8. ごみ処理・リサイクル | 9. 上下道の整備 |
| 10. 下水道の整備 | 11. まちなみ景観 | 12. 土地利用における秩序の確保 |
| 13. 市街地整備 | 14. 道路整備 | 15. 公共交通の整備 |
| 16. 公園・緑地の整備 | 17. 自然環境保全 | 18. 児童福祉 |
| 19. 高齢者福祉 | 20. 障がい者福祉 | 21. 地域福祉 |
| 22. 健康づくりへの取組 | 23. 健康づくり施設の充実 | 24. 医療体制 |
| 25. 保険・年金 | 26. 幼児教育 | 27. 小中学校の教育 |
| 28. 社会教育・文化的活動を行う機会 | 29. スポーツ・レクリエーションの機会 | 30. 青少年の健全育成 |
| 31. 文化・芸術活動の促進 | 32. 文化遺産の保存や活用 | 33. 地域間交流・国際交流 |
| 34. 商業の振興 | 35. 工業の振興 | 36. 農業の振興 |
| 37. 労働環境の充実 | 38. 観光の振興 | 39. 行政の情報を知る機会 |
| 40. まちづくり活動に参加する機会 | 41. 自治会・コミュニティの充実 | 42. NPO 団体や市民ボランティアの登録促進 |
| 43. 地域における組織と人材の育成 | 44. 男女共同参画の取組 | 45. 人権尊重と平和意識の高揚 |
| 46. 他市町村との連携 | 47. 市役所の窓口サービス | 48. 市の仕事の効率性 |
| 49. 市の財政運営 | | |

※重要度 = 「重要」回答数×2+「やや重要」回答数×1+「あまり重要でない」回答数×(-1)+「重要でない」回答数×(-2)
 満足度 = 「満足」回答数×2+「やや満足」回答数×1+「やや不満」回答数×(-1)+「不満」回答数×(-2)

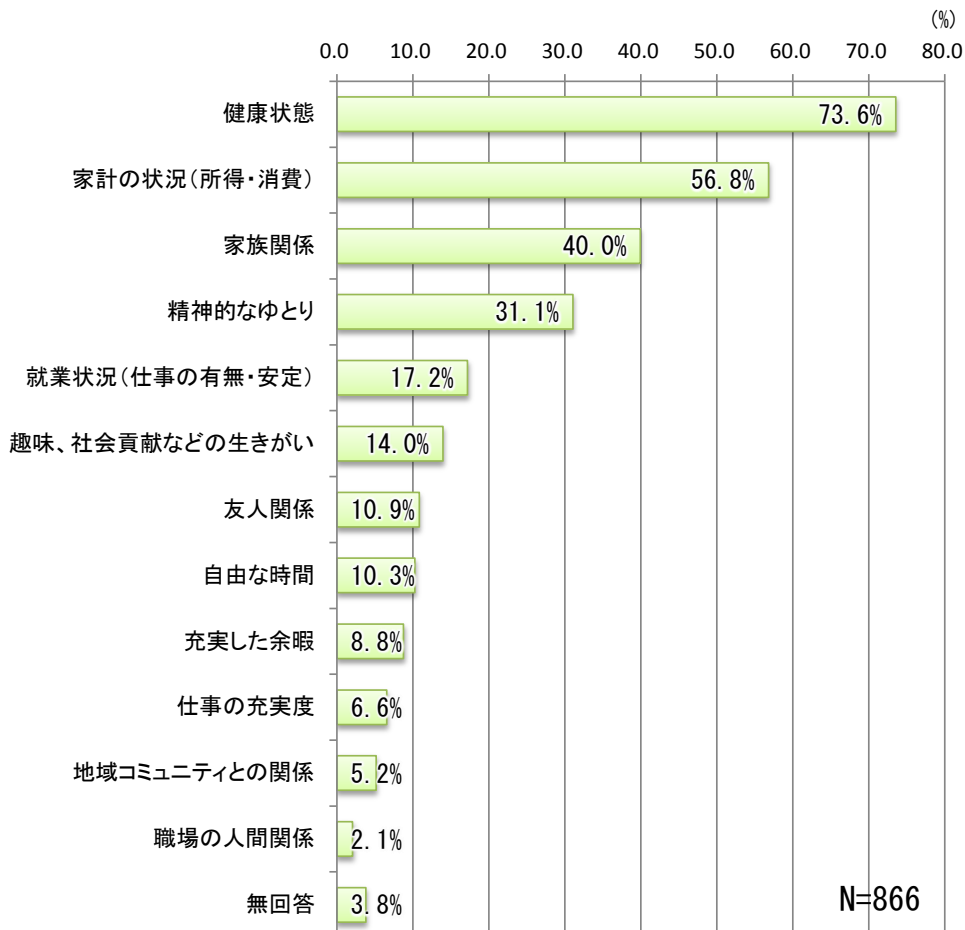
○「幸福感」について

- 7割以上の方が「幸せだと感じている」と回答しています。特に女性が「幸せだと感じている」と回答している割合が80.1%と男性69.4%より高い結果が出ており、下野市は「女性の幸福感が高いまち」と言えます。
- 幸せであるためには「健康状態」、「家計の状況（所得・消費）」、「家族関係」が重要であると回答されています。

■「幸せ」と感じている割合



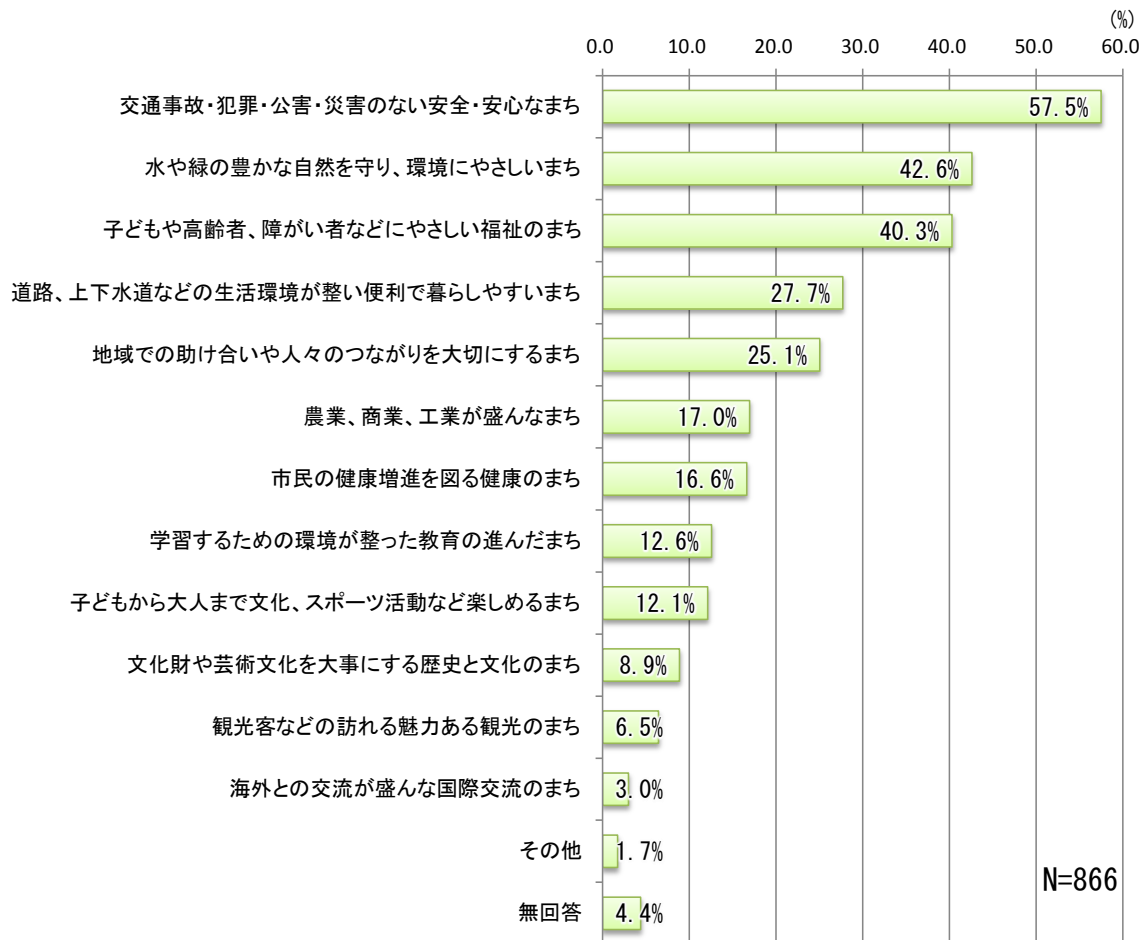
■「幸せ」であるために重要だと思うこと



○将来の下野市について

- 下野市が今後 10 年間のまちづくりでどのようなまちになってほしいかという設問に対して、「交通事故・犯罪・公害・災害のない安全・安心なまち」、「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」、「子どもや高齢者、障がい者などにやさしい福祉のまち」などがあげられています。
- 下野市が人や企業から選ばれるために必要なこととして、医療・子育て支援の充実や雇用創出、市民協働、魅力創造・発信や都市基盤の整備などに関する意見があげられています。

■下野市の将来像



第2節 中学生・高校生アンケート調査

下野市自治基本条例では、未来を担う子どもたちを「地域の宝」として大切に、子どもがまちづくりに参画する機会を積極的につくり、その意見を尊重することとしています。

第二次下野市総合計画の策定においては、初めて中学生・高校生アンケート調査を実施し、子どもたちのまちづくりに関する思いや夢を総合計画の将来像や施策に反映するとともに、子どもたちのまちづくり意識や地域への関心・愛着を高め、地域のまちづくり活動やボランティア活動への参加意識の醸成を図りました。

下野市の次の時代を担う中学生・高校生の意見や要望を調査し、総合計画に反映するため市内の中学2年生580名、及び石橋高校、小山北桜高校2年生408名に対し実施しました。

【調査概要】

対 象	中学生…下野市立南河内中学校、下野市立南河内第二中学校、下野市立石橋中学校、下野市立国分寺中学校に在学する580名 高校生…栃木県立石橋高等学校、栃木県立小山北桜高等学校に在学する408名 ※実施対象は第2学年
手 法	学級ごとに教室にて配布・回収
実施時期	平成26年7月
調査項目	・回答者について ・下野市に感じていること ・下野市への居留意向 ・まちづくりへの関心 ・下野市の将来像

【調査結果】

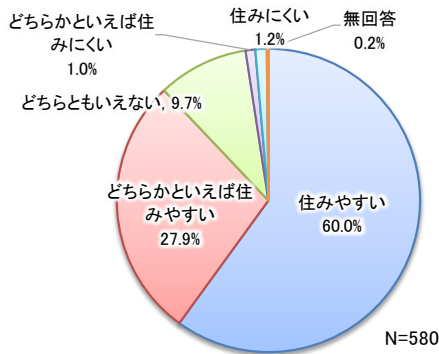
○まちづくりへの関心

- 下野市で行われている活動への参加意向は、中学生・高校生ともに、最も多いのは「身近な地域でのお祭り」、次いで「体育スポーツ活動や健康づくりに関する活動」、「自然をまもる活動」や「市をきれいにする(清掃・あきかん拾いなど)活動」などの環境分野の活動が多くなっています。

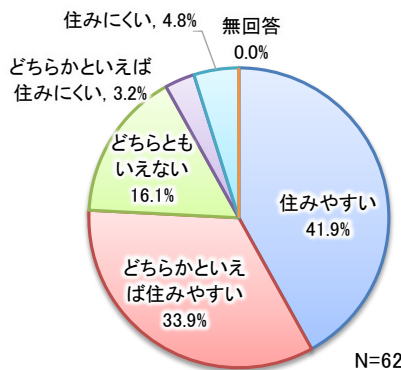
○下野市に感じていること

- 市内に居住する中学生・高校生の愛着や住みやすさに対する意向は高くなっており、特に中学生は80%を超えています。
- 中学生の方が高校生より、身近な生活環境についての評価が高くなっており、特に、自然環境、道路環境、医療サービスの評価が高くなっていきます。

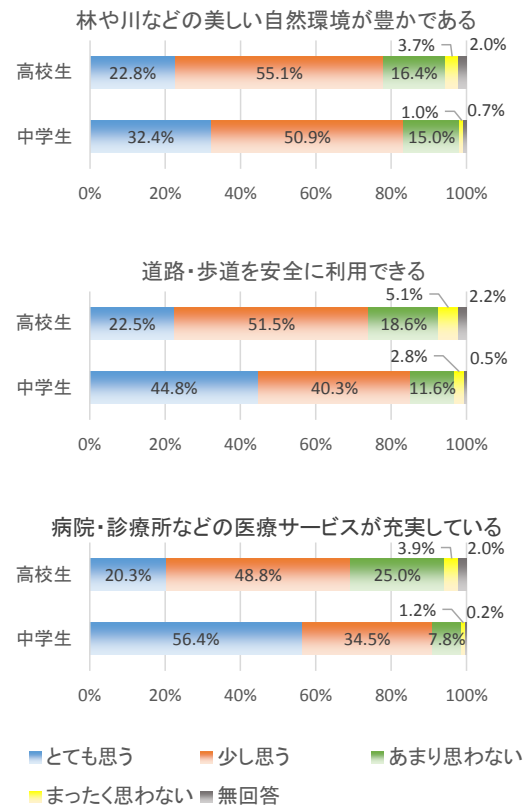
■下野市の住みやすさ（中学生）



■下野市の住みやすさ（高校生・市内居住者）



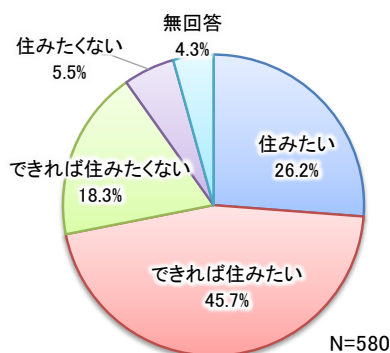
■身近な生活環境についての評価



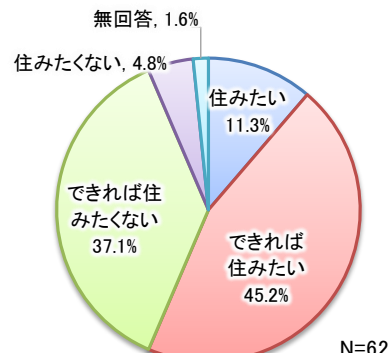
○下野市への居住意向

- 中学生の将来の居住意向は高くなっていますが、高校生になると将来の居住意向が減少しています。その理由としては、他都市へのあこがれや雇用、交通の利便性に関する事などがあげられています。
- 「どうなれば住み続けたいと思うか」という質問に対して、「買い物が便利になれば」や「働く場所が増えれば」と回答する意見が多くあげられました。

■将来の下野市への居住意向（中学生）



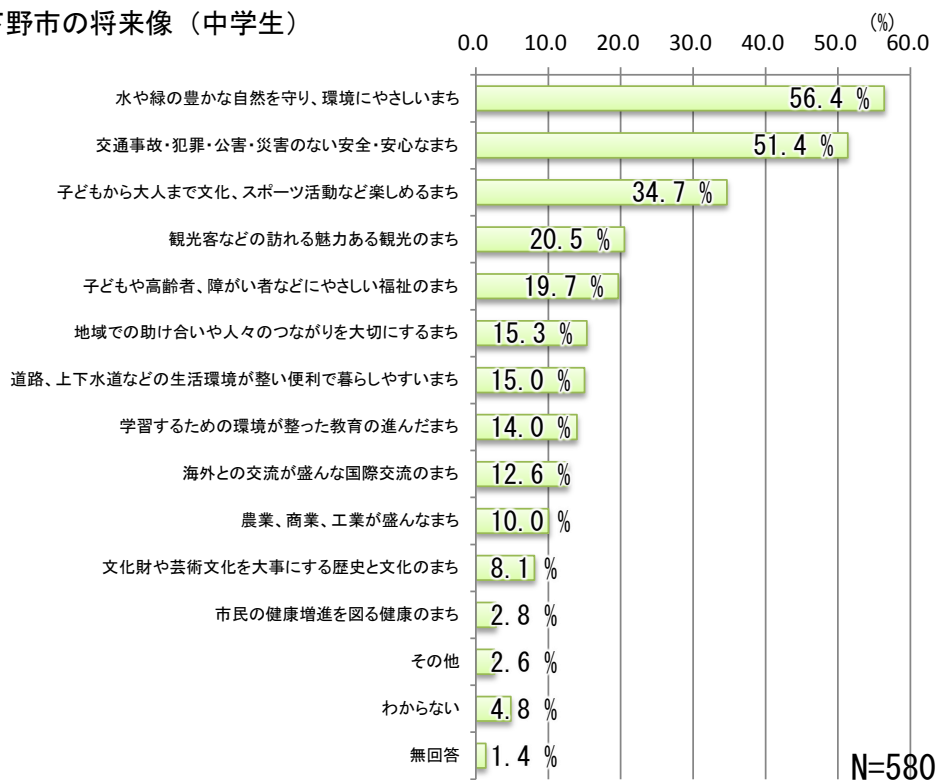
■将来の下野市への居住意向（高校生・市内居住者）



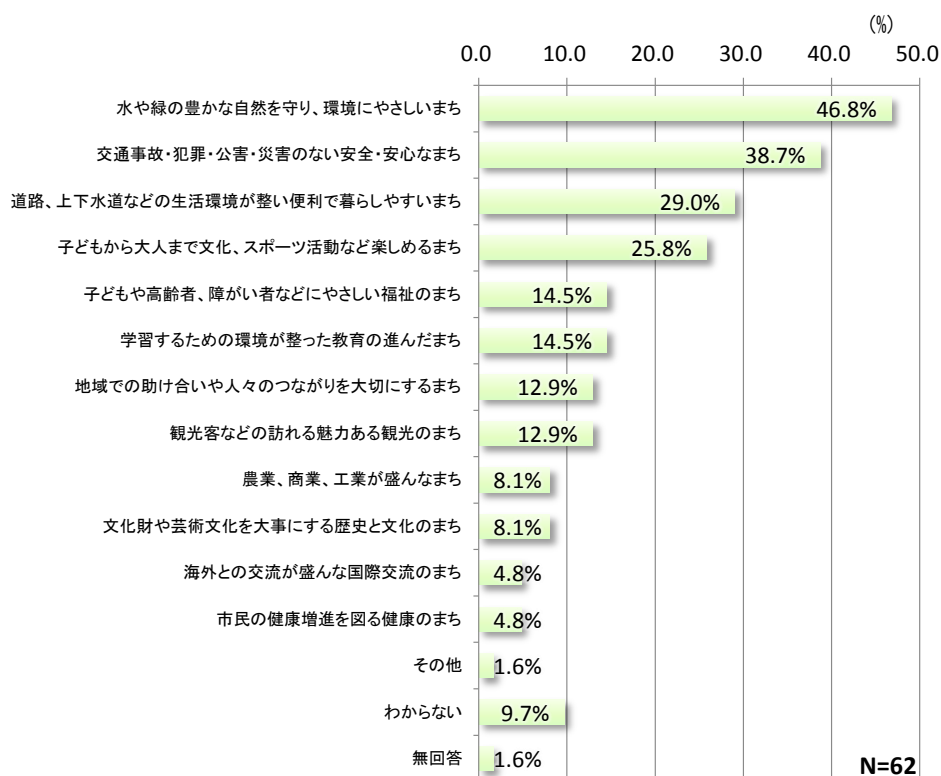
○下野市の将来像

- 中学生・高校生ともに最も多いのは「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」、次いで「交通事故・犯罪・公害・災害のない安全・安心なまち」となっています。

■下野市の将来像（中学生）



■下野市の将来像（高校生・市内居住者）



○あなたが下野市長だったらやってみたいこと（中学生・高校生）

下野市長だったら・・・(中学生)

- ・ 犯罪のないまちにする、地域の方々に呼びかけや、夜間パトロールの協力を依頼する。防犯カメラを設置する。
- ・ 下野市の川をホタルが来るような川にする。
- ・ 高齢者とふれあう。高齢者や障がい者に優しいまちにする。
- ・ 自治医大があるので、医療サービスをもっと充実させて、子育てのしやすいまちにする。
- ・ 自然を活用したテーマパークをつくる。アミューズメントパーク、遊園地、ゲームセンターをつくる。
- ・ カンピくんのアンテナショップをつくる。
- ・ ゴミ拾いや草むしり、清掃等のボランティア活動を行う。
- ・ 市民と植物を植え、祭りに参加する等、市民と直接交流する。
- ・ 今までののほほんとした感じを残したい。

下野市長だったら・・・(高校生)

- ・ ゴミ拾い、クリーン活動を行う。
- ・ 自然を守り、緑を増やす。公園を増やす。
- ・ バスや電車の本数を増やす。
- ・ 保育園の先生体験を行う。
- ・ 高齢者や障がいをもつ人々が住みやすい環境をつくる。
- ・ 国際交流で外国人とふれあう。
- ・ 小中学校で交流する。
- ・ 駅前の店を増やす。駅前を活性化する。
- ・ 高校生がお祭りを手伝う。
- ・ ボランティア活動や交流などにもっと市民が参加しやすいような環境をつくり、地域の中での交流を増やしたい。
- ・ 下野市といえばこれと言えるようなシンボルをつくる。

第3節 子ども未来プロジェクトの提案

将来の下野市を担う子どもたちのまちづくりに関する思いや夢を提案してもらうため、子ども未来プロジェクトによるワークショップを開催しました。各グループで市の特性と課題を共有した上で、2つのテーマを設定し、テーマごとに将来像、方針、重点的な取組を提案しています。

「子ども未来プロジェクト」とは・・・市内の全小・中学校において、プロジェクトのテーマに基づいた実践・交流を行い、自分の生き方や勤労・奉仕についての考え方を深めるとともに、学校と地域、小学校と中学校のつながりを強め、また、この取組を地域にも発信し、理解と協力を得ながら、子どもの社会参画を目指します。

【開催概要】

○開催経過

回	開催日	テーマ
第1回	平成26年9月22日(月)	まちのお宝マップ、弱みマップをつくろう!!
第2回	平成26年10月26日(日)	まちの将来像と取組を考えよう!!
第3回	平成26年11月22日(土)	提案書にまとめよう!!

○参加者：南河内中学校、南河内第二中学校、石橋中学校、国分寺中学校に在学する全27名(3回のべ48名)



【提案書の主な内容】

グループ	テーマ	将来像	重点的な方針
A	交通・道路	誰もが安全に移動しやすい道路	「きれいな道」「安心して通りやすい道」「明るくて安全な道」の実現
	公園・緑地	公園を子どもから高齢者まで幅広く使えるようにする	「自然の中で遊べる公園」の実現
B	産業・観光	特産品を全国にPRしたい	「イベント・PR」の実現
	安心・安全	あかりが人を安心させるまち	「明るく安全なまち」の実現
C	自然・環境	自然が多くきれいなまち	「ゴミが少ないまち」の実現
	産業・観光	観光施設が多いまち	「特産品をPRする」の実現



子ども未来プロジェクト

テーマ	将来像	方針
Aグループ	誰もが安全に移動しやすい道路	①きれいな道 ②広い道 ③安心して通りやすい道 ④明るくて安全な道
	公園を子どもから高齢者まで幅広く使えるようにする	①運動できる公園 ②自然の中で遊べる公園 ③花いっぱい・緑化
	特産品を全国にPRしたい	①集客施設 ②イベント・PR
	あかりが人を安心させるまち	①明るく安全なまち ②利用しやすい公園 ③安全な道 ④災害や事故に強いまち
Bグループ	自然が多くきれいなまち	①ゴミが少ないまち ②自然をPRする ③地域交流 ④花いっぱい・緑化 ⑤水がきれいなまち ⑥農業が栄えるまち
	観光施設が多いまち	①観光施設・観光スポット ②自然をPRする ③歴史をPRする ④特産品をPRする
Cグループ	自然が多くきれいなまち	①ゴミが少ないまち ②自然をPRする ③地域交流 ④花いっぱい・緑化 ⑤水がきれいなまち ⑥農業が栄えるまち
Cグループ	観光施設が多いまち	①観光施設・観光スポット ②自然をPRする ③歴史をPRする ④特産品をPRする

～中学生による6つの提案～

重点的な取組み（役割分担）

みんな（地域・学校）でできること

- 募金活動で街灯をつける
- 何人かの集団で下校するようにする
- 定期的なゴミ拾い活動（学校と地域の合同） など

家族でできること

- 募金活動に参加
- 家の周りのゴミ拾い（各家庭で）
- 袋を持ち歩いてゴミを捨てない など

自分一人ですること

- 各自の交通ルールの徹底
- 夜遅くに一人で出かけない
- ゴミを見つけたら拾う
- 自分自身ゴミを捨てない など

みんな（地域・学校）でできること

- 地域で花や木を植え育てる
- 自然のものでできた遊具をつくる
- 「自然」についてのポスターをつくり、みんなに知ってもらおう など

家族でできること

- 木々や草花を大切にす
- 家族でピクニックなどをする など

自分一人ですること

- 公園のゴミ拾い
- 外で遊ぶ
- 遊具の危険なところを見つけたら親や市に伝える など

みんな（地域・学校）でできること

- 学校の給食などで下野ブランドを出して、みんなに知ってもらおう
- 店・道の駅と連携して、PRをする
- 総合学習で特産物などを調べるなど

家族でできること

- 家族で道の駅に行き、下野ブランド（しもつけ丼）を食べる
- 食べに行ったり、地元産のものを買う
- 家族皆でフェイスブックに投稿など

自分一人ですること

- 口頭で友達や知りあいに伝える
- 下野でブランドのことを話題に出す
- 特産品を買う
- 地元について関心を持つ など

みんな（地域・学校）でできること

- マップで危険が多い所に印をつける
- 自治体で周辺をパトロールする制度をつくる
- LEDを使用する など

家族でできること

- お互いの行く場所や帰宅する時刻を伝える
- 自治体の活動に参加をして、地域とのつながりを深める など

自分一人ですること

- 下校などでは、友達と一緒に帰る
- 暗い夜道はたすきをつける
- 各学校が蛍光色などでポスターを作り危険な場所に貼る など

みんな（地域・学校）でできること

- ゴミ拾い活動を、地域・学校で行う
- 冬は学校周辺の落ち葉はきをする
- 学校の校庭だけではなく、学区内の除草を行う など

家族でできること

- 家の周囲の清掃
- 町内の奉仕活動に参加する
- 近所の人と協力して家の周辺のゴミ拾いを行う など

自分一人ですること

- 積極的にゴミ拾いへの参加
- 日頃、落ちていたゴミを意識して、しっかり拾って生活する など

みんな（地域・学校）でできること

- 行事やお祭りのときに売る、広める
- 学校で特産物を調べる機会を作る
- ゆるキャラグランプリでかんぴくを1位・上位にする など

家族でできること

- 実際に特産品名物を食べに行き、まわりに広める
- 家の中での食事にも積極的に特産物を使ってみる など

自分一人ですること

- まずは自分が食べて、友達や家族に広めていく
- 特産品を使った料理を考え、周りの人に発信 など

第4節 市民懇談会の提案

市民懇談会では、「生活環境・地域社会」、「教育・文化」、「保健・福祉」、「産業・都市基盤」の4つのテーマに分けて、テーマごとの課題解決や子ども未来プロジェクトでの提案の実現に向けて、重点的な取組を提案しています。

【開催概要】

回	開催日	テーマ
第1回	平成27年1月25日(日)	施策を評価し、“強み”と“弱み”を共有しよう!!
第2回	平成27年2月7日(土)	重点的な取組を提案しよう!!
第3回	平成27年2月21日(土)	取組の役割分担を考えよう!!

○参加者：公募市民および市民アンケート調査対象者のうち参加希望者、
団体懇談会からの参加希望者（3回のべ58名）

【提案の主な内容】

生活環境・地域社会

強みを活かす 重点的な取組	ヒューマンコミュニケーションの強化と良きキズナづくり
	自治会を核とした若さあふれるまちづくり
弱みを改善する 重点的な取組	老若男女が集えるサロンづくり
	向こう三軒両隣精神の復活
	自治会の活性化



教育・文化

強みを活かす 重点的な取組	国内外のより多くの地域との交流
	子どもの頃から、身の周りにある自然を観察し、保護する機会を増やす
弱みを改善する 重点的な取組	ボランティアの活用と普及・育成
	芸術・文化の充実 子どもの頃から、質の高い芸術・文化に触れさせる



保健・福祉

強みを活かす 重点的な取組	箱物はあるが、自由度・管理の工夫が必要
	医療機関は充実しているがもっと地域とつながると更によい
弱みを改善する 重点的な取組	人材の育成（地域と行政）
	様々な部門との横のつながりを充実させる情報交換



産業・都市基盤

強みを活かす 重点的な取組	農業や農産物を活かした観光づくり かんぴょうむき大会・外国人の体験ツアー
	医大生及び子ども未来プロジェクト（市内の子どもたち）を巻き込んだイベント（若者に下野市の良さを知ってもらう）
弱みを改善する 重点的な取組	空き店舗をコミュニティの場にする
	駅周辺の活性化（若者・高齢者） シャッター街を魅力あるお店づくり



第5節 関係団体懇談会の提案

関係団体懇談会では、「生活環境・地域社会」、「教育・文化」、「保健・福祉」、「産業・都市基盤」の分野ごとに分かれ、まちづくり課題について、市民の“生の声”を把握します。また、それらの課題に対して市民の自主的なまちづくり支援策を検討します。

【開催概要】

○テーマ：分野別の課題と協働のまちづくり

○参加団体と開催経過

開催日程	対象分野	団体名	
平成27年 1月17日（土）	生活環境 地域社会	人権擁護委員 自治会連絡協議会 男女共同参画推進委員会	国際交流協会 しもつけ環境市民会議
	教育 文化	社会教育委員会 体育協会	P T A連絡協議会 青少年健全育成市民会議
	保健 福祉	老人クラブ連合会 身体障害者福祉会 民生委員児童委員協議会	食生活改善推進協議会 ボランティア連絡協議会
	産業 都市基盤	認定農業者連絡協議会 農村生活研究グループ協議会 石橋商工会	道の駅しもつけ 建設業協同組合

○開催内容

- ①各団体の活動内容と活動に関する課題
- ②各分野に係る取組の提案
- ③取組の推進にあたって団体の役割



【提案の主な内容】

生活環境・地域社会

キーワード	まちの課題	取組の提案
若者の力 居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の居場所が少ない ・地域活動の担い手が少ない ・リーダーの不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドカフェの開催 ・シャッター通りに学生がやりたいお店を開く
環境（緑）	<ul style="list-style-type: none"> ・平地林保全 ・環境美化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園者の落葉堆肥作り ・公民館でのガーデニング、まちづくり教室
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパクトシティとしての魅力を活用 ・女性が働きやすい職場の環境づくり（育児休暇） 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地と農地の土地利用の見直し ・3世代が住める環境づくり
市民参画 組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市民提案を重視したまちづくり ・女性の能力を引き出すことができる地域づくり ・市民としての在住外国人に対する支援の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性リーダー育成講座を開催 ・在住外国人支援。通訳ボランティアバンク
空家	<ul style="list-style-type: none"> ・地区によって空き家が増加 ・地域としての魅力度が低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・条例や空き家バンクの取組

教育・文化

キーワード	まちの課題	取組の提案
人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人的資源の乏しさ ・関係する組織内の人に時間的余裕がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材に関する定期的な情報交換の実施
子どもを取りまく社会 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながり、みんなで見ていく目や声が必要 ・安全なまちづくり ・子ども会の参加率が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で朝のあいさつ ・街灯や横断歩道の確認や直接の声
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関との連携に慣れていない ・事業を推進する際に関係する団体との連携がうまくいかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体・組織の定期的連携会議の実施
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・知りたい情報にたどりつかない ・どこにどういう活動があるか把握できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙をもっと簡易化する ・地域の歴史を知る

保健・福祉

キーワード	まちの課題	取組の提案
周知情報	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する問題の認識不足 市民が何を考えているかを知って欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の声を伝えるためのポストなどを設置
関心	<ul style="list-style-type: none"> 福祉行政に対する市民の関心を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> 市と団体の共催事業として市民に関心を持ってもらう
移動	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進んでいるが、交通の便が悪い レクリエーションに行くにも乗り物に不便がある 	<ul style="list-style-type: none"> 市の行事に参加する際の移動支援（デマンドバス等）
連携	<ul style="list-style-type: none"> 各種活動・行事の人数調整 	<ul style="list-style-type: none"> 各団体との相互支援 事業を単独でなく、2～3の団体で行う
地域の安心	<ul style="list-style-type: none"> 地域で安心して生活できる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流 スポーツ等で交流を深める 公民館の清掃や行事に参加
若い人の参画	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が増えて、若い方への育成が思うようにいかない 	<ul style="list-style-type: none"> 学校との協力

産業・都市基盤

キーワード	まちの課題	取組の提案
まとまり、一体感	<ul style="list-style-type: none"> 3町合併後のまとまりが不足 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の集いを開く 市全体の活動を多くし互いに話し合う場を増やす
資源	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的に良い場所・資料をもっと積極的に紹介して欲しい グリムを意識した施設が点在 	<ul style="list-style-type: none"> 生産量日本一のかんぴょうの新商品の開発 歴史的建造物の再現
PR	<ul style="list-style-type: none"> PR不足 	<ul style="list-style-type: none"> PRサイトやSNSで積極的な情報発信 道の駅で定期的なPR活動
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> 農業は天候に左右されやすい（雪害など） 	<ul style="list-style-type: none"> 出荷者に対する見舞金補助金の制度確立 防災施設の充実
体制	<ul style="list-style-type: none"> 後継者不足 農産物出荷者の高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> Iターン、Uターンの誘致政策 インターンシップの活用
社会、経済、情勢	<ul style="list-style-type: none"> 飲食等のサービス業が弱い 米価が安くなっている 駅前商店街の疲弊 	<ul style="list-style-type: none"> 食味のよい米を作りPR 新規創業者への支援 若手経営者を集めてアイデアを出す
市民の理解	<ul style="list-style-type: none"> 公共工事の施工に対する住民の理解不足 	<ul style="list-style-type: none"> 市から広報で周知

第4章 下野市の強みと弱み

第2章「下野市の現状と将来見通し」、第3章「下野市民の意識・提案」から導き出した本市の「強み」と「弱み」を整理し、強みを活かした取組の必要性、弱みを改善するための課題をまとめました。

第1節 下野市の強み

◆全国でもトップクラスの医療環境を有しています

医師1人当たり人口は全国第1位（平成23年）であり、1万人あたりの病院・診療所数、病床数も県内でトップクラスとなっています。市民意識調査においても医療体制に関する満足度が高く、身近な生活環境についても、病院・診療所などの医療サービスが充実していると感じている市民が多くなっています。

少子高齢化が進む中、充実した医療環境の強みをまちづくりに活かし、市民が生涯安心して住み続けることができるまちづくりが必要です。

◆県内市で最小面積74.59km²のコンパクトシティです

本市は、生活に必要な都市生活機能が近接した効率的な都市構造を有しています。中心市街地に医療機関、銀行、スーパーなどの生活圏を集約し、交通ネットワークにより地域間連携がされたまちなみを形成しています。

新庁舎の整備、行政機能などへの効率的な投資を可能にするコンパクトで持続可能な都市、魅力あるまちづくりが求められています。

◆JR駅を3つ有し上下水道などの生活基盤が整っています

本市は、小金井駅、自治医大駅と石橋駅の3つの駅を有するJR宇都宮線で、都心まで快速等で約70分の通勤圏であり、小山から新幹線利用で約40分の近距離にあります。また、水道普及率、下水道普及率が県内でもトップクラスの水準となっています。

市民意識調査においても、上下水道の整備に関する満足度は高く、良好な居住環境を活かした定住促進が求められます。

◆栃木県の歴史を語る上で重要な史跡が残されています

市内で約1万2千年前の人々が定住したことがわかる遺跡が発見され、5世紀後半には複数の大型前方後円墳が造られ、8世紀には古代東国における行政・文化の中心地として下野薬師寺・下野国分寺・尼寺が建立されました。江戸時代には五街道の一つである日光街道の宿場町（小金井宿・石橋宿）が栄え、小金井一里塚も古代寺院跡とともに国史跡として保存されています。

これらの歴史を活かし、子どもたちの誇りや愛着につながるよう、貴重な文化財を次世代に継承するとともに観光資源として活用することが必要です。

◆平地林や川など美しい自然環境が、うるおいのある空間を形成しています

本市は、姿川と田川が育んだ平坦で美しい田園風景と希少な平地林が残っており、豊かな自然空間が広がっています。この自然環境を活かした公園も多く有しており、市民にやすらぎをもたらしています。

これらの平地林や農地、河川の価値を再認識し、その多面的機能を守り育てていくとともに、自然と調和したまちづくりが一層求められます。

◆自然災害が少なく、安全・安心な暮らしが形成されています

本市は自然災害が少なく、市民意識調査においては、自然災害に対して安全性が高いと思うとした割合が78.8%にのぼり、また、消防・防災、防犯、医療体制などの満足度が高くなっており住みよい生活環境を有しています。

しかし、防犯・防災、医療体制など安全・安心な暮らしに関する重要度が高く、市民の安全・安心に関する意識はより一層高まっており、まちの将来像においても「交通事故・犯罪・公害・災害のない安全・安心なまち」が求められています。

そのため、あらゆる災害への対応や、日常の防犯対策など、市民が安心して暮らすことができるまちづくりを更に強化することが求められます。

◆露地野菜や施設園芸も盛んで、多様な農畜産物を生産しています

本市は、ほうれんそう、ごぼう、きゅうりなど県内トップクラスの生産量を誇る露地野菜や施設園芸が盛んであり、生産量日本一（全国の52.9%を生産）である特産品のかんぴょう、良質な和牛など、多様な農畜産物を有しています。

これらを活かしたブランド化の取組を進めており、今後も更にブランド化を推進するとともに、新たな農産物の産地化や商業・加工業との連携による6次産業化の取組が更に求められます。

◆県内でもトップクラスの健全な財政運営が図られています

本市の実質公債費比率、将来負担比率等はいずれも継続的に改善し、県内14市の中においても良好な状態にあります。また、経常収支比率についても14市平均を大きく下回り良好な状態を保持しており、財政健全性が確保されています。

今後の財政運営にあたっては、事業の重点化と取捨選択を行いながら、各施策を着実に推進するとともに、将来を見据え、更なる行財政改革に取り組み、長期的展望に立った健全な財政運営が求められます。

第2節 下野市の弱み

◆高齢化に伴う福祉対策と市民一人ひとりの健康づくり対策が更に求められます

近年の人口増加率は鈍化、少子高齢化が進行しており、今後人口減少に転じることが予想されます。また、高齢者世帯、要支援・要介護認定者数、障がい者数は増加しています。

そのため、高齢者や障がい者などの増加に伴う福祉対策と市民一人ひとりがいきいきと暮らせるまちづくりに向け、「健康寿命」※の延伸を図ることが求められます。

◆新たな産業の創出や雇用の確保が求められます

小売店舗数や小売業年間商品販売額は減少傾向にあり、商業の衰退が顕著です。市民意識調査においても、商業・観光振興や労働環境の充実など、産業面に関して満足度が低い状況です。特に、市民懇談会においては、市街地における空き店舗の増加が指摘されています。

空き店舗の有効活用や新たな企業立地の促進などによる産業の活性化が求められます。

◆情報発信や地域資源のPRなど、シティセールスの推進が求められます

本市の観光客数は減少傾向にありましたが、道の駅しもつけの整備により、平成23年以降に集客は増えています。しかし、市民意識調査においては、「観光の振興」に関する満足度が低いとともに、子ども未来プロジェクトにおいても、特産品のPRの必要性が提案されています。

本市のイメージやブランド力を高めるため、道の駅しもつけなどを活用した地域資源のPRや情報発信によるシティセールスの推進が求められます。

◆地域コミュニティの希薄化や市民活動の担い手不足を解消し、まちづくり活動の活発化が求められます

市民意識調査においては、市民活動への参加状況は少なく、地域のコミュニティ形成においても、コミュニティの希薄化、市民活動の担い手不足が課題となっています。市民懇談会においても、ボランティアの活用・育成、自治会の活性化が求められています。

平成26年4月に施行した自治基本条例を踏まえ、住民自治の推進、コミュニティの形成や人材の育成など、まちづくり活動の活発化が求められます。

※健康寿命：(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)